

**令和2年度**

**協働によるまちづくりに関する  
市民意識アンケート**

**報 告 書**

# 調査概要

目的	市民の「協働」に対する考え方やまちづくりへの参加状況の把握のため
調査対象	弘前市民（2,000人）※無作為抽出
調査方法	商工労政課が実施した「弘前市中心市街地に関するアンケート」に本アンケートを同封し、返信用封筒で回答
調査期間	令和3年2月12日（金）アンケート送付 回答締切：～2月26日（金）
回答者数	870人（回答率43.5%）

## 目次

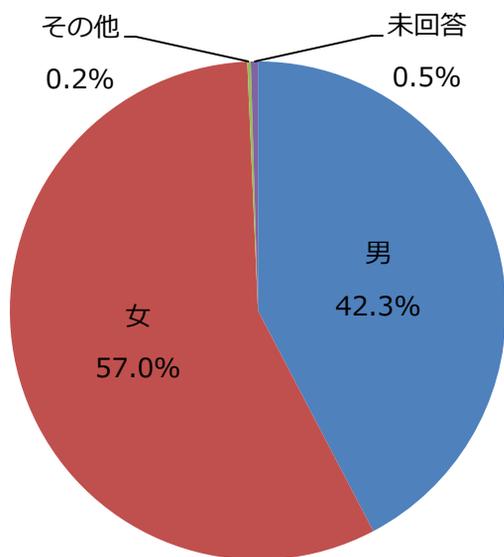
◆回答者について	02
◆条例の認知度	04
◆市政運営や市の事業への参加について	06
◆まちづくり（市民活動）への参加について	07
◆まちづくりに対する考えについて	10
◆弘前市の協働に関する取り組みについて	12
◆自由意見	13

# 回答者について

※構成比の合計は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

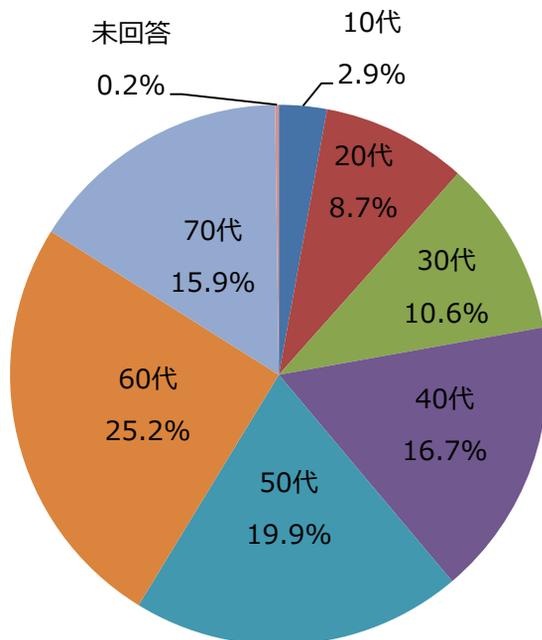
## 性別

	人数	構成比(%)
男	368	42.3
女	496	57.0
その他	2	0.2
未回答	4	0.5
合計	<b>870</b>	<b>100</b>



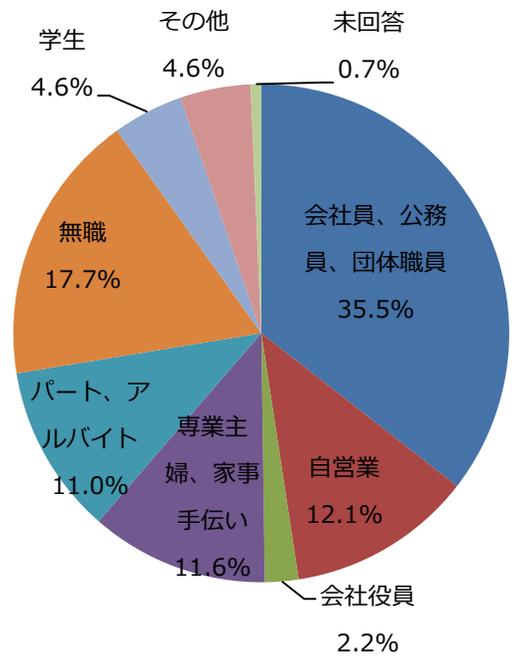
## 年代

	人数	構成比(%)
10代	25	2.9
20代	76	8.7
30代	92	10.6
40代	145	16.7
50代	173	19.9
60代	219	25.2
70代	138	15.9
未回答	2	0.2
合計	<b>870</b>	<b>100</b>



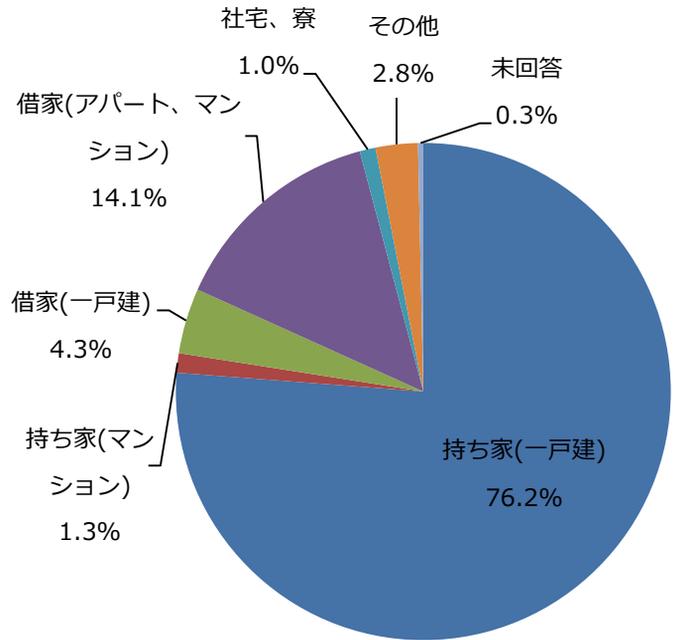
## 職種

	人数	構成比(%)
会社員、公務員、団体職員	309	35.5
自営業	105	12.1
会社役員	19	2.2
専業主婦、家事手伝い	101	11.6
パート、アルバイト	96	11.0
無職	154	17.7
学生	40	4.6
その他	40	4.6
未回答	6	0.7
<b>合計</b>	<b>870</b>	<b>100</b>



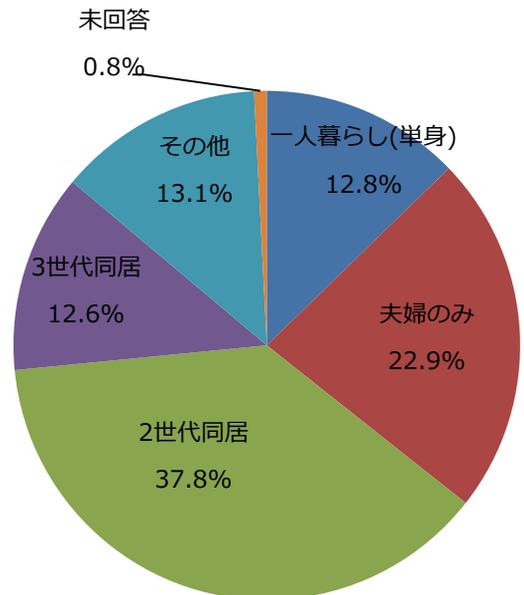
## お住まい

	人数	構成比(%)
持ち家(一戸建)	663	76.2
持ち家(マンション)	11	1.3
借家(一戸建)	37	4.3
借家(アパート、マンション)	123	14.1
社宅、寮	9	1.0
その他	24	2.8
未回答	3	0.3
<b>合計</b>	<b>870</b>	<b>100</b>



## 家族構成

	人数	構成比(%)
一人暮らし(単身)	111	12.8
夫婦のみ	199	22.9
2世代同居	329	37.8
3世代同居	110	12.6
その他	114	13.1
未回答	7	0.8
<b>合計</b>	<b>870</b>	<b>100</b>



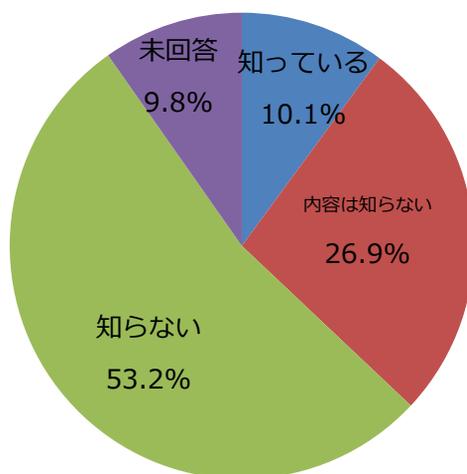
# 条例の認知度

※回答比率の合計は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

## 問1 「協働」という言葉の意味を知っていましたか。

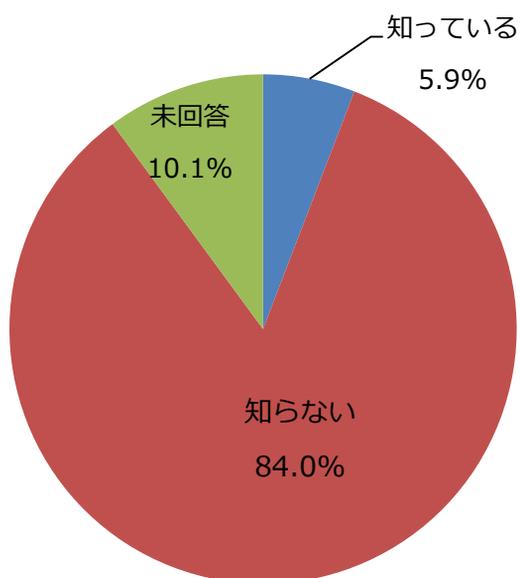
上段：回答数  
下段：回答比率

回答	年度	
	R1	R2
知っている	88 11.4	88 10.1
言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない	182 23.5	234 26.9
知らない	439 56.8	463 53.2
未回答	64 8.3	85 9.8



## 問2 「弘前市協働によるまちづくり基本条例」が制定されていることを知っていますか。

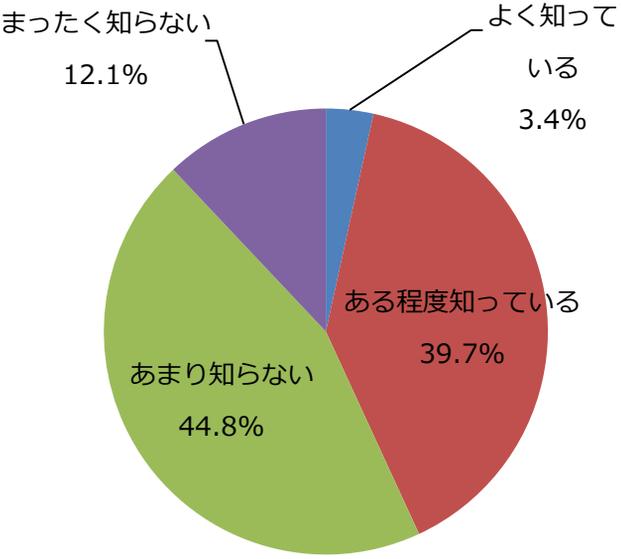
上段：回答数  
下段：回答比率



回答	年度	
	R1	R2
知っている	61 7.9	51 5.9
知らない	642 83.1	731 84.0
未回答	70 9.1	88 10.1

**問3 問2で「1. 知っている」と答えた方にお伺いします。条例の内容を知っていますか。**

回答	年度	
	R1	R2
よく知っている	4 6.0	2 3.4
ある程度知っている	25 37.3	23 39.7
あまり知らない	29 43.3	26 44.8
まったく知らない	9 13.4	7 12.1

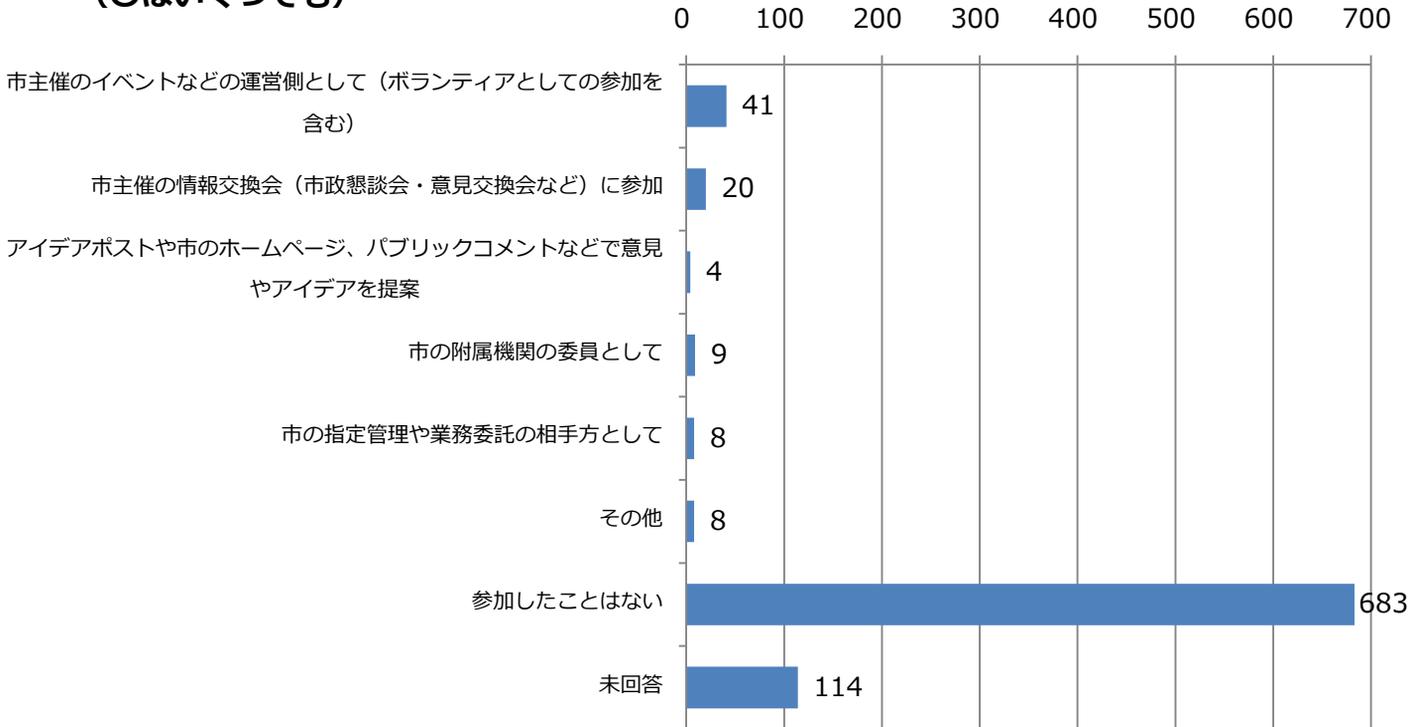


**【調査結果(問1~3から)】**

- ◆協働という言葉の意味を「知っている」と答えたのは全体の10.1%で、条例の制定については、「知っている」と回答した人は5.9%となりました。市民に対して、まだまだ浸透されていないことが伺えます。
- ◆市が進めている協働によるまちづくりの基本理念などを、引き続き市民に対して周知することが必要です。

# 市政運営や市の事業への参加について

問4 市政運営や市の事業に参加した（現在、参加しているのも含む）ことはありますか。  
（〇はいくつでも）



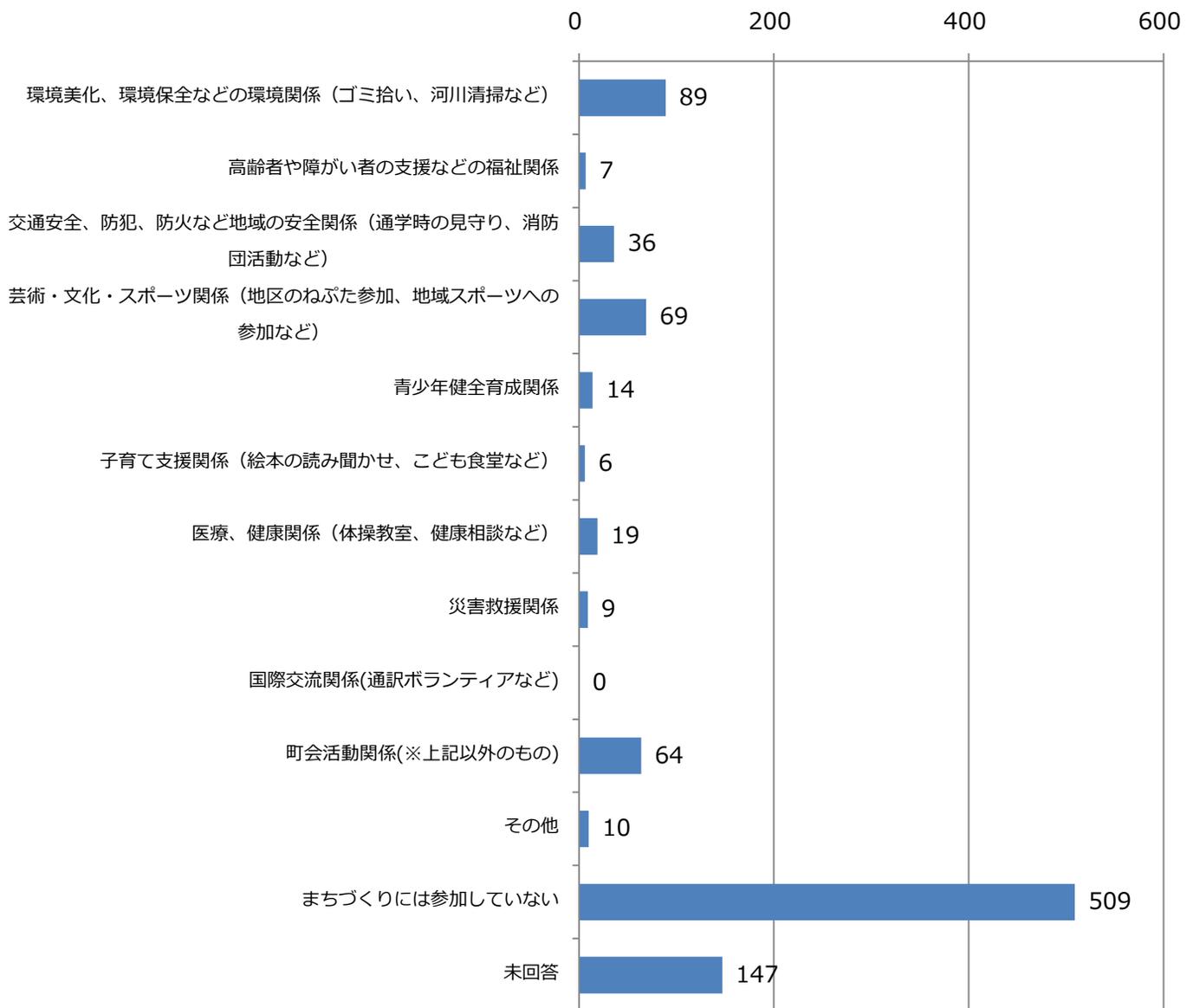
その他（抜粋）  
弘前市少年指導員、まちづくり1%システム事業を活用 など

## 【調査結果(問4から)】

◆全体の78.5%（回答者のうちの90.3%）の人が、市政運営や、市の事業に参加したことがないという結果となりました。これまで以上に、協働によるまちづくりへの関心を高め、積極的な参加を促す必要があります。

# まちづくり（市民活動）への参加について

問5 この1年間で参加したまちづくりはどのような活動ですか。（○はいくつでも）



その他（抜粋）

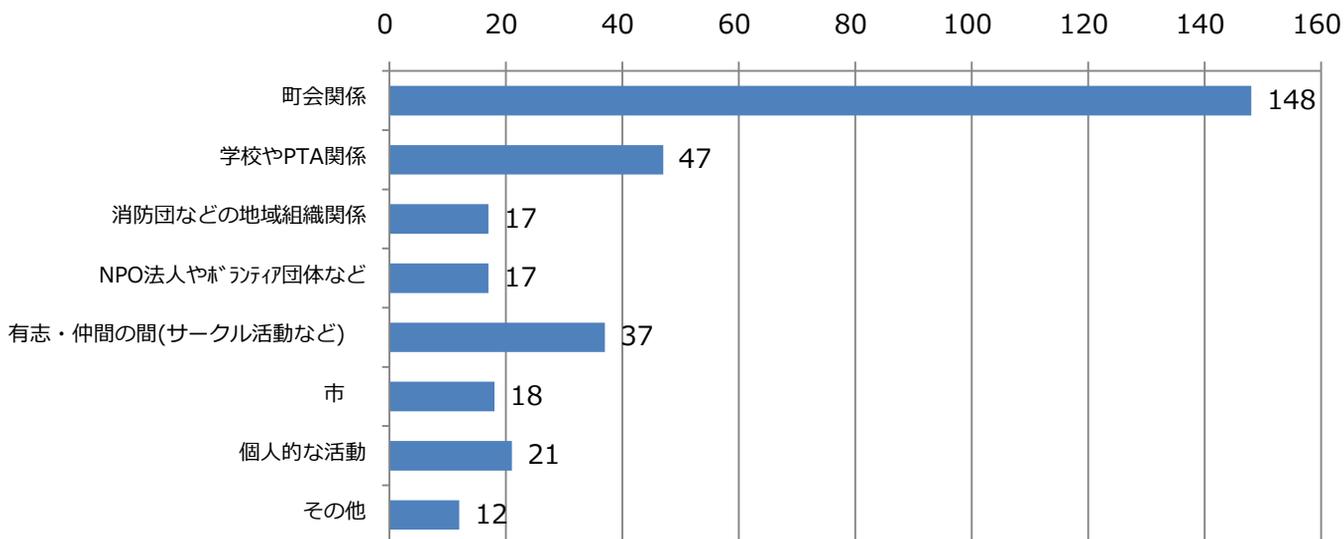
冬のゴミ置場雪片付け など

## 【調査結果(問5から)】

◆全体の半分以上（全体の58.5%、回答者のうちの70.4%）が、「まちづくりには参加していない」と回答しました。

◆参加しているまちづくりのうち、最も多かったのは「環境関係」で、次いで、「芸術・文化・スポーツ関係」、「町会活動関係(※上記以外のもの)」となっています。河川清掃や、地域スポーツなど、身近なまちづくりに参加している人が多いと考えられます。

**問6 参加しているまちづくりの実施主体はどのようなものですか。（〇はいくつでも）**  
 ※問5でまちづくり参加していると回答した人



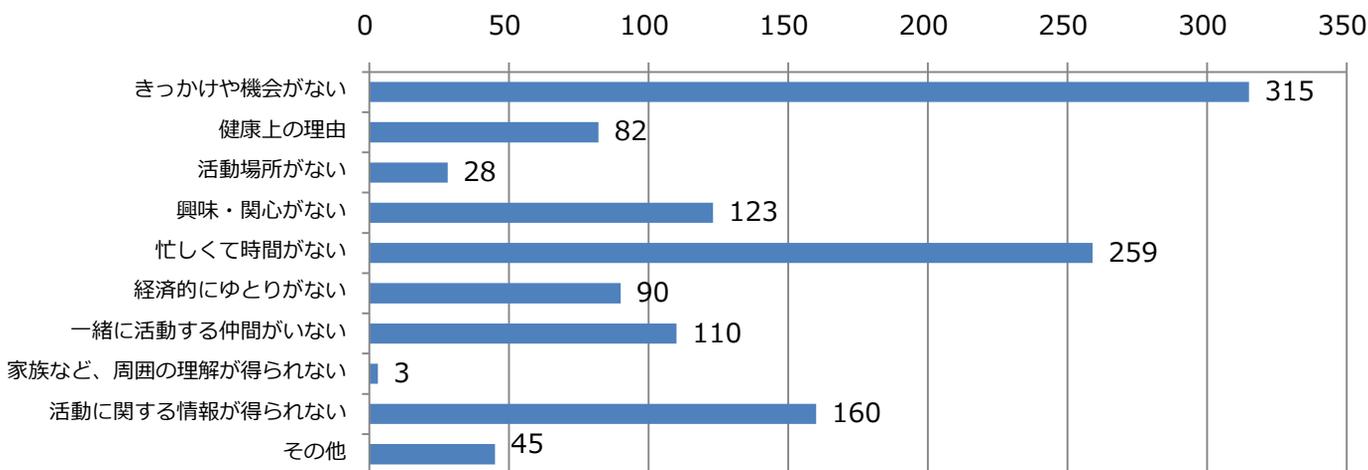
その他（抜粋）

企業ねぶた、地区体育協会、地域の輪車クラブを通じて、会社 など

【調査結果(問6から)】

- ◆回答が最も多かったのは「町会関係」で、次いで「学校やPTA関係」となりました。（令和元年度と同じ）
- ◆生活に密着した身近なまちづくりに参加している人が多いと考えられます。

**問7 あなたが、現在、まちづくりに参加していない理由はなんですか。（〇はいくつでも）**



その他（抜粋）

コロナのため、高齢のため、子育て、特技や知識がないから、人がたくさんいるところが苦手、子どもの成長に伴い、引っ越ししてきたばかりだから など

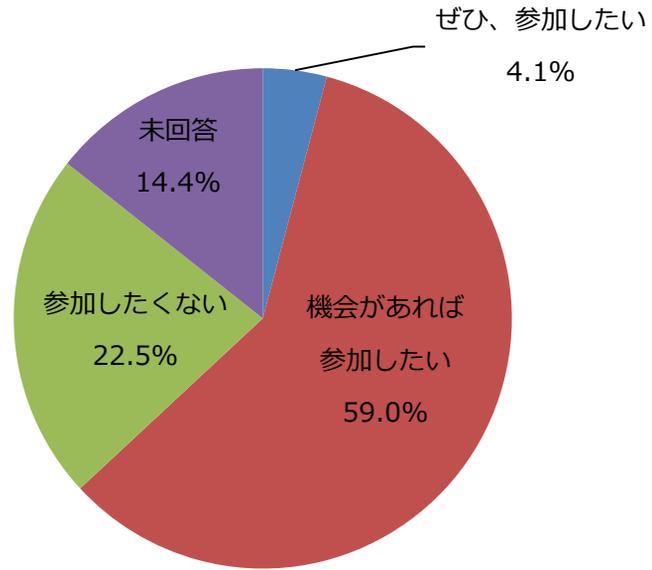
【調査結果(問7から)】

- ◆回答が最も多かったのは「きっかけや機会がない」で、次いで「忙しくて時間がない」、「活動に関する情報が得られない」となりました。（令和元年度と同じ）
- ◆市内でどのような活動があるのかなどの情報発信を強化し、きっかけや機会を創出することで更なるまちづくりへの参加が図られることが予想されます。

問8 あなたは、今後まちづくりに参加したいと思いますか。  
 (※現在、参加している人も回答)

上段：回答数  
 下段：回答比率

回答	年度	
	R1	R2
ぜひ、参加したい	27 3.5	36 4.1
機会があれば参加したい	423 54.7	513 59.0
参加したくない	216 27.9	196 22.5
未回答	107 13.8	125 14.4



【調査結果(問8から)】

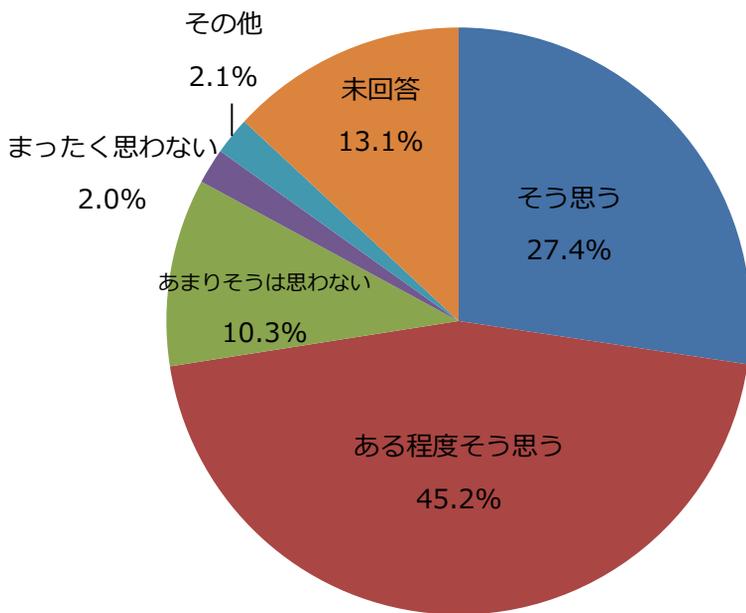
◆全体の63.1% (回答者のうちの73.7%) がまちづくりに「ぜひ、参加したい」、「機会があれば参加したい」と回答しました。前年度比+4.9ポイントと、わずかに上昇しました。

# まちづくりに対する考えについて

問9 市民等と行政が協働を進めていくことは、より良いまちづくりを進めるうえで有効な手段になるとお考えですか。

上段：回答数  
下段：回答比率

回答	年度	
	R1	R2
そう思う	178 23.0	238 27.4
ある程度そう思う	378 48.9	393 45.2
あまりそうは思わない	88 11.4	90 10.3
まったく思わない	17 2.2	17 2.0
その他	18 2.3	18 2.1
未回答	94 12.2	114 13.1



【調査結果(問9から)】

- ◆全体の72.6%(回答者のうちの83.5%)が「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答しており、多くの市民が協働することがより良いまちづくりに繋がると考えています。
- ◆協働は必要と思いつつも行動を起こせない人が多数いることが想定されるため、一步を踏み出すきっかけづくりが必要です。

問10 問9で、そう思った理由はなんですか。

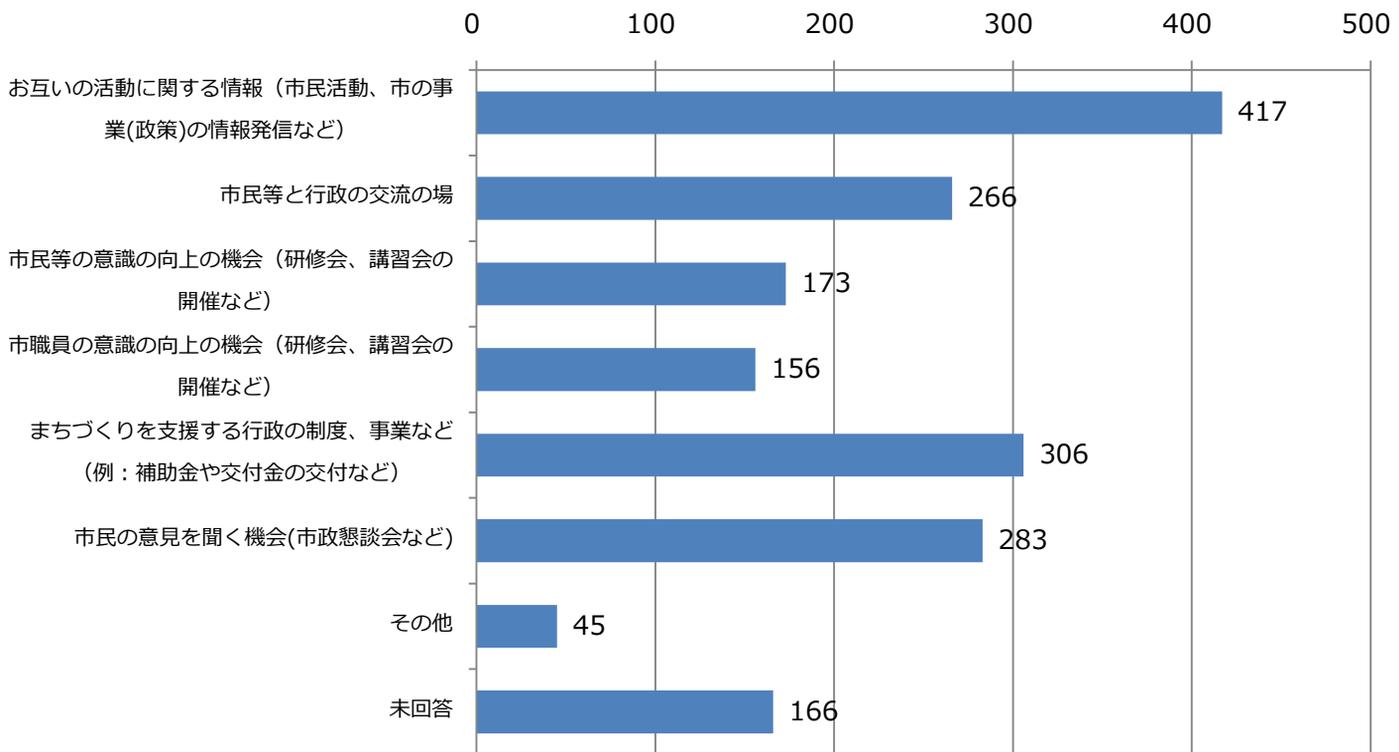
「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答した人の意見が多かったものなど(抜粋)

- ◆多くの人が関わることでより良い考え、新たな発見が生まれるから。
- ◆どちらか一方だけでは限界があり、偏りが生まれる。補完しあうことが必要。
- ◆お互いの考え方、状況を知ることができる。
- ◆行政の考えと市民の考え方はズレがあるため、意見を出し合うことは必要。
- ◆生きていくうえで、人と人との関わりは大切。
- ◆住民自治の推進、自分のまちは自分で作るという考えが大切。
- ◆まちづくりに参加することで住むまちに愛着が沸く。
- ◆お互いの協力あってこそそのまちづくりであり、活性化につながる。
- ◆まちづくりは官民の区別なくみんなでやるものだから。

「あまりそう思わない」、「まったくそうは思わない」と回答した人の意見が多かったものなど（抜粋）

- ◆行政と市民との考えにズレ、温度差がありそうだから。
- ◆市民の意見は通らず、最終的には行政の思うままになりそう。
- ◆活動的な(声の大きい)市民の思うよりよいまちづくりが、みんなにとっての住みやすいまちになるとは限らないから。
- ◆話し合いに参加する人が、いつもほぼ同じ。
- ◆市民もひとそれぞれ考え方違うため。
- ◆市職員の意識が低い。
- ◆協働という言葉自体がわかりにくいから。

問11 今後、市民等と行政が協働してまちづくりを進めていくためには何が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

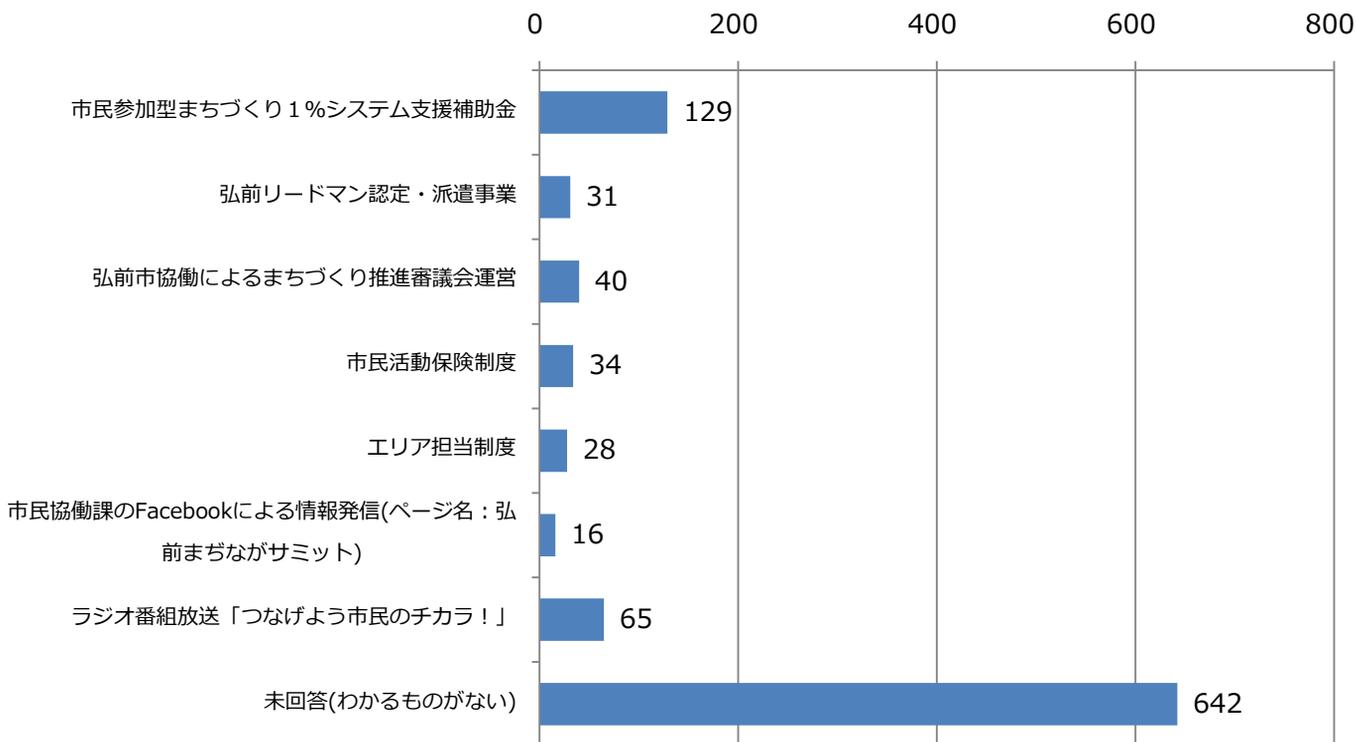


【調査結果(問11から)】

- ◆「お互いの活動に関する情報」と回答した人がもっとも多くなりました。協働を進めるためには、まずはお互いのことをより深く知ることが必要と考えている市民が多いようです。
- ◆2番目に多かったのが「まちづくりを支援する制度、事業」であり、その次が「市民の意見を聞く機会」となりました。新たに創設した1%システムのスタート部門など現行制度の周知徹底を図るほか、市民の声、ニーズを吸い上げ今後の支援策の方向性を検討していくことが必要です。

# 弘前市の協働に関する取り組みについて

問12 弘前市が実施している下記の事業について、知っているものすべてに○を付けてください。（○はいくつでも）



## 【調査結果(問12から)】

◆最も認知度が高かった「1%システム」でも全体の14.8%という結果となりました。引き続き、情報発信に努め、認知度向上を図る必要があることがわかりました。

◆特に「Facebook」は、まちづくり関連事業の紹介やイベント等の情報発信ツールとして積極的に活用している一方で、最も認知度が低い結果となっているため、引き続き積極的に登録、活用を促す必要があります。

# 自由意見

## 情報発信の強化

- ◆問12の取り組みを何も知らない。広報が行き届いていないのでは。
- ◆弘前市がどのような取り組みをしているか、市民としていろいろ知りたいと思う。情報を得る手段としては、HPを見るのが1番良いのか？
- ◆様々なまちづくり事業がありますが、発信力が足りないと思う。
- ◆ボランティア等に興味があっても情報が入ってこないため参加できないということがあった。情報を小まめに入手できる方法があればよい。
- ◆様々な年代の方々に伝える為に発信方法をもっと広げていただけたら…と思います。広報、ラジオは知っていましたが、Facebookは存じ上げませんでした。
- ◆優れた人や活動のすばらしさ、魅力が人に知られていないため広がっていかない、という面があるのではないのでしょうか。市の広報で催しの日時・場所を案内するだけでなく、エピソード話など紹介すれば、関心持つ人も増えると思う。
- ◆活動内容の情報発信に力を入れる必要を感じる。
- ◆私を含め、周りも協働という言葉を知っている人がいなかったため、情報発信が弱いと思う。
- ◆“協働によるまちづくり”という取り組みをはじめて知りました。
- ◆子育て、若年世代の話をきくため、SNSの活用をしてほしい。SNSで(ツイッター、インスタなど)情報発信を多めをお願いします。
- ◆興味を持った人が気軽に参加や情報を知れるようなものがあればいい。Lineとかで情報発信することで、若者に対する理解は高まると思う。町会は高齢者向けの情報発信場所にする、若者と高齢者がそれぞれどう考えているのかを互いに共有したりすれば、地域全体でなにをやればいいのかが見えてきそう。
- ◆年齢関係なくアピールした事が伝わる手段が必要だと思います。
- ◆事業内容とかほとんど知らない事が多かった。もっとわかりやすく、SNSの活用とか、堅苦しくなくポップに伝えてもらえると興味を持ちやすい。回覧板とかもっと幅広く活動とか知ってもらえるようにすると良い気がします。
- ◆知っているものがひとつもない。これが問題です。普通の会社員は職場での情報が主、もっと市民全体に知ってもらおう手段をかんがえ、広める努力が必要。
- ◆協働によって〇〇が〇〇になりました！の様なもっと発信し、あなたもやれる！的に呼びかける。協働をある種、まちをつくる遊びの様な楽しい事としてアピールする。

## 幅広い意見の収集

- ◆せっかくある事業ですし、弘前市民のために頑張ってくださいっているので、県外出身者や大学生等からもいいアイデアをいただきながら、新しい取り組みも期待しています。
- ◆弘前市が活性化するよう、たくさん市民の声を聞いて応えて行って欲しいです。
- ◆協働について無知を知らされました。行政というと慣例、前例という枠外のことは積極的でないイメージがありますが、市民の意見も取り入れ、これからの弘前の発展を望みます。

## 相互の連携が必要

◆市民はもっと行政のことを知る必要があると思うし、行政はもっと市民に歩み寄る必要があると思う。

## 市民等と行政の距離感を縮める

◆行政サイドはどうしても「上から目線」になりがちです。まずそれを持たず、予算が無いからできないではなく、どうしたらできるかの目線と、一緒だという気持ちがあればやり易いのではないかと思います。

◆市議会議員や市職員と市民等による意見交流会の実施（特に学生と）

◆市民からの意見を待つだけでなく、行政も積極的に自らが介入していかなければならないと思う。

## 自分にできることから始めたい

◆コロナ禍ではスムーズに参加することが困難かと思われれます。収束すれば何かしら協働に参加したいと思います。

## 参加したいけどできない

◆フルタイムで仕事をしていると参加がむずかしい。休暇を取ってでも参加できるようなシステムが欲しい。

## まちづくりに参加する余裕なし

◆税金も払ってさらにボランティアで無償の労働とかムリです。仕事しているので時間もない。

◆年金生活で生活に余裕がないので、その日一日で精一杯。

◆協働に参加できるような余裕のある労働環境と賃金が大事かと思えます。

◆ボランティア、市民の為に…の前に自分の生活がやっとです。生活に余裕のある方、時間がある方がやってすごい！ありがたい！何もやらない人はダメ…的な考え方が嫌いです。

## アンケートの実施で勉強になった

◆「まちづくり」について、全くといっていい程知識がなかったこと、改めて知る事となり、市民として恥ずかしい限りです。アンケートを配布され、はじめて知りました。

◆こちらのアンケートをいただくまで、協働による取組について知らなかった。このような機会を頂戴して感謝している。

◆今回このアンケートを見て、案外自分の住んでる地域の事に関心がなく、知らない事があつたと思いました。これを機にもっと関心を持とうと思いました。

◆協働に関する取り組み、市が実施している事業について知らないことばかりでした。今回のアンケートで勉強になりました。

◆知識がなかったので改めて自分のまちづくりを考えるきっかけになった。

## 若者の参加が必要

- ◆もっと若い人が意見を出せる場をください。情報を文字だけでない形で発信してください。
- ◆若い人にも協働の意味を知ってもらい、参加してもらいたい。なかなか難しいと思うけど。
- ◆このアンケートが少しでも早く結果に繋がることを望んでいます。やりっぱなしではなく実行して、よりまちづくりが進みますように。若い世代の意見を聞き、若い人が参加して作り上げることが大事。
- ◆若い人が参加する活発な街づくりにしたらどうか。学生のまち弘前なので。

## その他

- ◆弘前は住みやすいと感じます。
- ◆他県のまちづくりのプロのセンス、知識を学び、もっと広い視野で弘前の城下町の良さを生かしつつ、素敵な町づくり、頑張ってもらいたい。型にはまらない、自由な発想でいろんな事に挑戦し続けて欲しい。
- ◆誰が何のためにどうするのか(何をするのか)明確にする、表記する。
- ◆補助金、交付金などもう少し考えて下さればいいんだけど。
- ◆このアンケートがどうか何かの役になるように心から願います
- ◆事業の成果について知りたい。(何かの形で報告しているのかもしれないが)
- ◆これからの世の中に合った形での運営や参加・参画の仕方ができればいいと思う。昔からの形にこだわるには、人手(担い手?)も時間も足りないと思うので。
- ◆町内会制度について、考えていく時期ではないか? アパートや若い人たちが参加しない世帯が増えてる一方、参加している世帯だけが町会費を払って、当番をしたり、仕事をしているとなかなか大変なこともある。町会の班長に家族の勤務先や生年月日まで、なぜお知らせしなければならぬか。今の世の中で、あり得ないと思う。
- ◆学生の私には難しかったです。
- ◆意見、要望を聞く耳さえもない行政、地域で活動している人に期待していません。住みにくい市になったと思います。
- ◆子供がいる家庭では、会場に行って意見交換する事は難しいと思うので、学校から手紙で配ったりした方がいいと思います。(簡潔に)
- ◆市民と「地域おこし協力隊」の隊員との交流。例えば"Zoom"を活用して。
- ◆これからの協働に必要なツールとしてお金と人材とそれを使う頭が必要になると思います。なにをするにもお金と人材が必要です。弘前市はいろんな資材があるので柔軟な頭と行動力をバックアップが必要ではないでしょうか。
- ◆新聞を見てると最近の弘大生が町の発表にいろいろ工夫して積極的に行動している事が問われます。大賛成です。若い人の感性が素晴らしいと思います
- ◆「協働」という言葉自体知らなかった。ラジオ、TVで、「きょうどう」と聞いても、ちがう漢字を思い浮かべる。「協働」という言葉をキャッチーな言葉に置き換えると良いのでは。
- ◆積極的に参加をせず意見も出さずで、周りの方がせっかく決定してくれた事案も、自分の思い通りにならないと必ず、理不尽に文句を言う輩が出てくると思います。人との交流を苦手としている私ですが、私と同じ状況の方でも、このようなアンケート調査などは参加可能です。(例えば、ネット(Web) 調査解答など…)
- ◆市民や職員に経済感覚を身につけてほしい。まちづくりは経済地盤があって成り立つもの
- ◆普段から話題になるような地域に根ざしたものでないので、発信のしかたが問題だと思う。活字だけではダメだと思う。人々の声掛けが必要と考える。
- ◆「まちづくり」も「協働」も大切だと思うが、参加は躊躇する。アウェー感で挫折しそう。
- ◆研修会、講習会などに参加してみたい。(何からどうやっていけばよいかわからない)